

東浦町の歴史に思いを馳せる

# はせぶら

森岡編

## 「ぶいぶい婆の墓」



### 新企画!コラム「はせぶら」

東浦には意外と知らない名所がたくさんある…そこで!  
歴史に思いを馳せながら町内全6地区を「ぶらり」広報情報課の職員がめぐります。

新企画の「はせぶら」のため、久しぶりに地元森岡地区を散歩してみた。

森岡南交差点から森岡中町交差点に上がっていく道路から一本奥に入ったところ(森岡字岡田)に「ぶいぶい婆の墓」はある。

私が幼い頃は「ぶいぶいばあ婆の墓」と呼んでいた。現在、墓に立てられている看板には「ぶいぶい婆の墓」となっている。呼び方を調べてみると、諸説あるようだ。昔、祖母を「おばあちゃん」と呼んでいた。当時「ばあ婆」なんて呼んだら、親にすごい剣幕で怒られたものだ。それでも、幼心の好

奇心で「ばあ婆」と呼んでみたかった。ある時「ぶいぶいばあ婆」と呼べば、怒られないことに気づき「ぶいぶいばあ婆、ぶいぶいばあ婆」と連呼していたことを思い出した。

ところで「ぶいぶい婆」の「ぶいぶい」とは何なのか気になった。昔の記憶をたどると、糸をつむいだ音が由来だったような気がする。そこで、町ホームページ「ひがしうらの民話」から調べてみた。

民話によると「ぶいぶい」とは「綿からつむいだ糸を糸車で燃りかけする音」とある。「ぶいぶい婆」とは、いつも糸車の「ぶい、ぶい、ぶい」という音が聞こえる家の、働きものの婆をこう呼んでいたようだ。

しかしながら、民話を読み続けると、新たな事実を知ることとなった。ある日「ぶいぶい婆」の家に、1人の大ケガをした、さむらいが来た。ぶいぶい婆は必死に介抱をしたが、そのかいかなく死んでしま

う。死ぬ前にさむらいは、介抱のお礼として「私の刀を売ちなさい。その売って得たお金を使うといい」と言い残した。ぶいぶい婆は刀を売り、そのお金で、さむらいの立派な墓を建てたという。

実は「ぶいぶい婆の墓」はぶいぶい婆が建てた「さむらいの墓」だった。

今回の散歩を通して、新たな逸話を知ることができた。町内にはまだまだたくさんの文化財がある。

同じような発見があると思うと、楽しみでしょうがない。(Y)

